
読者の声 どくしゃのこえ READERS'OPINIONS 読者之声

(読者の声1)下院政府監視小委員会報告(中間報告):1月6日に備えて安全を確保せよとの大統領命令を軍部の高官が意図的に無視していた(マスコミは伝えない)

2021年1月6日事件を調査していた下院政府監視小委員会の調査により、従来国会に提出されていた国防総省内部 監査報告が事実ではなく、1月6日に備えて安全を確保せよとの事前(1月3日以降)の大統領命令も議会警察トップか らの要請も軍部の高官が意図的に無視していたということが明らかになった。(2024年9月20日発表)

民主党が頻りに唱え、マスコミが広めていた、「トランプ大統領が1月6日の演説で群衆を扇動し、彼らを使って議会 襲撃をさせた」という作り話が嘘だったことが議会による調査で明らかになったという訳だ。

1月6日の両院議会でトランプ大統領の就任がほぼ確実だと認識していた軍部による実質的なクーデターという見方をする人もいる。

実際には軍部だけでなく、FBI、CIA、ペローシ下院議長をはじめ民主党、共和党の中のペンス副大統領らRINO、マスコミ、SNSが共謀してシナリオ通りに動き、報道し、多くの人々を騙して行ったクーデターと見ることができるだろう。

1月6日夜にホワイトハウスでマッキーナニー将軍(退役)がジャーナリストに対し、「アメリカでカネのために売国行為をする人がこんなに多いとは思わなかった。中国の工作がここまで進んでいるとは知らなかった。」と語っていたことは衝撃的だった。(これについては別途お届けしたい。)

何故ペローシ下院議長がマスコミを使って嘘を垂れ流したのかについては、マッキーナニー将軍(退役)の説明を聞けばコロナとのつながりを含め理解されるだろう。

下院政府監視小委員会報告(中間報告): 1月6日に備えて安全を確保せよとの大統領命令を軍部の高官が意図的に無視していた

Transcripts Show President Trump's Directives to Pentagon Leadership to "Keep January 6 Safe" Were Deliberately Ignored - Press Releases

https://cha.house.gov/2024/9/transcripts-show-president-trump-s-directives-to-pentagon-leadership-to-keep-january-6-safe-were-deliberately-ignored

(一部抜粋)

バリー・ラウダーミルク小委員長:「(軍部を含め)国防総省の高官に対しトランプ大統領が面会し、1月6日に議会周辺が安全に保たれるよう万全の警備を命令していたが、これらの高官達は大統領の命令を意図的に無視した。しかも議会の上層部に対しては警備はしっかりやっていると誤解させていた。従来国会に提出されていた国防総省内部監査報告は根本的な欠陥がある。関係者へのインタビューから導かれる結論ではなく、彼らには責任がないとの作り話に合致させる報告になっている。

今後彼らに対しては多くの疑問点があり、国民に対して真実を明らかにできるまで掘り下げるつもりだ。」 従来、公にされていなかった軍隊/議会警察高官達の証言の一部:

マーク・ミリー統合参謀本部議長:2021年1月3日にトランプ大統領がこう言った。「1月6日には大勢の抗議者が集まることが予想されるから州兵にしろ兵隊にしろ十分に配置して1月6日の議会イベントが安全に執り行われるように万全を尽くせ」

「州兵であろうと兵隊であろうと構わないからすべきことをちゃんとやってくれ。とにかく安全を確保することとも言った。」

クリストファー・ミラー国防長官代行: 「トランプ大統領が明日は1万人の兵が必要だろうと言ったが、自分は大統領 のいつもの冗談だろうと解釈した。命令であるとは思わなかった。」

「1月6日に皆が言っていたことはこうだった。大統領の演説を聞いたかい? 私は、あの男は90分もしゃべってカストロか誰かの様だな、と言った。」

「トランプ大統領は民主主義に反して暴動法を政治的に利用しようとしているのではないかと私は懸念した。そんなことはさせない。」

「軍隊を国会議事堂には決して配置させることはしない。以上。」

「ワシントンの州兵が使われないように議会から遠ざけておこう。」

スティーブン・サンド議会警察総監:「州兵の配備を緊急に要請します。暴徒に襲われつつあります。議会警察官は命懸けで任務を遂行していますが持ち堪えそうにありません、緊急配置を要請しました。でも、陸軍長官の代表部の方(ピアット将軍)は、州兵が議会をバックにして警護しているのは見かけが良くないとして却下されました。」

「議会の建物が突破されようとしているのです、と説明しました。すぐに彼らの支援が必要だったのです。ピアット将 軍はこう言いました。私の陸軍長官への進言は、要請を却下すべし、だと。|

アール・マシューズ ワシントン地区州兵大佐: 「州兵の発動はいつでもできる状態でしたが、陸軍長官が承認しなかったのです。」

「私達は議会の建物が突破されようとしているのを目撃しており、議会警備員、議会警察、ワシントン警察応援を必要としているのもわかっていました。ワシントン州兵本部にはすぐに応援できる州兵が控えていましたが発動命令が出されませんでした。命令がなければ動けなかったのです。」

「火事が5箇所で起こったという警報が出ているのに、火を消しに行くな、それより木に登った猫や犬を助けに行け、 と消防士にいう様なもので馬鹿げたことでした。」

(費府の飛行士)